

低炭素杯 環境大臣表彰

低炭素杯2018 表彰式



ファイナリストによるプレゼンテーション発表後に関催された「審査・企業/団体賞選考委員会(審査委員会)」において、低炭素杯2018の受賞団体を決定しました。

表彰式では、環境大臣賞グランプリ(1団体)、金賞(各部門から1団体、計4団体)の受賞団体が発表され、笹川博義環境大臣政務官より各受賞団体に賞状とトロフィー等が授与されました。

また、文部科学大臣賞(社会活動分野、学校活動分野から各1団体、計2団体)では、神山修文部科学省大臣官房審議官より各受賞団体に賞状とトロフィー等が授与されました。

企業/団体賞については、各賞提供のプレゼンターから受賞団体(9団体)へ、審査委員特別賞は金谷審査委員長から受賞団体(1団体)へ、オーディエンス賞は川北副実行委員長から受賞団体(2団体)へ賞状等が授与されました。

さらに、アンバサダー特別賞では、低炭素杯2018アンバサダーのルー大柴さんより受賞団体(1団体)に賞状等が授与されました。

環境大臣賞トロフィー



低炭素杯2011から風倒木や朽木を利用した独創的な環境大臣賞トロフィーを制作いただいている齊藤公太郎さん。木々と暮らす中で地球温暖化を実感し、低炭素杯を応援する想いをトロフィーとして創り上げてくださっています。

今年は、齊藤さんが在任の群馬県の榊の倒木と、ますほ里山暮らしを学ぶ会(山梨県)様主催の里山ワークショップで間伐された檜をご提供いただき、トロフィーの素材として用いられました。

文部科学大臣賞トロフィー



低炭素杯2016より、文部科学大臣賞トロフィーを制作いただいているのは、青森県五所川原市の里山に津軽金山焼の窯を開いた松宮亮二さんです。

須恵器の強い影響を受けた津軽金山焼は、薪窯で1,350度の高温でじっくりと焼きあげる焼締めの手法で、土本来の深みのある独特の風合いが特徴です。

夜通し薪をくべ、巨大な登り窯で焼きあげた土のトロフィーからは、低炭素杯に相応しい風格と強いメッセージが伝わります。

低炭素杯2018 受賞者一覧



環境大臣賞 グランプリ



岩手県立遠野緑峰高等学校

環境大臣賞 金賞 ジュニア・キッズ部門



学校法人静岡理工科大学星陵中学校

環境大臣賞 金賞 学生部門



宮城県農業高等学校 科学部復興プロジェクトチーム

環境大臣賞 金賞 市民部門



大阪府 住宅まちづくり部 公共建築室 設備課

環境大臣賞 金賞 企業部門



倉持産業株式会社

ファイナリスト紹介

学生部門 環境大臣賞 グランプリ

ホップ和紙開発プロジェクト

岩手県立遠野緑峰高等学校

〒028-0541 岩手県遠野市松崎町白岩21-14-1

☎0198-62-2827 <http://www2.iwate-ed.jp/ryo-h/>



遠野市は、ビールの苦みや香りに使われているホップの一大産地です。しかし、毎年200トンの蔓が廃棄されそのほとんどが焼却処分されています。そこで私たちは、試行錯誤の末、廃棄される蔓から繊維を抽出し、世界に類のないホップ和紙を誕生させました。これによってCO₂の削減にもつながっています。またホップ農家の担い手不足が課題で、和紙をととして新たな農業の魅力を発信し、ホップ農家の産業振興と所得向上を目指しています。



審査コメント

遠野はホップの一大産地であるが、そこで廃棄され焼却処分されている蔓から繊維を抽出し世界初のホップ和紙を誕生させ、それをすでに実用化させた。それに加え効率的な生産工程の確立や化学薬品を一切使わない安全なエコ和紙に仕上げたことなど非常に高く評価できる。さらに和紙作りを通して農業の新しい魅力を発信し、課題である農業の担い手不足解決へのソリューションを提案したり、観光の活性化に繋げたりとすでに大きな成果を形にしている事はまさにグランプリに値する取組と言える。

—— 審査・企業/団体賞選考委員会 委員長 金谷 年展

受賞者コメント

この度は、環境大臣賞グランプリという輝かしい賞を頂き高校生活で一番の思い出となり本当に感激しております。受賞後は遠野市民の皆さんからも多くのお祝い言葉も頂きました。この賞を受賞できたのは、私たちの研究に長い間協力してくださった遠野ホップ和紙を育てる会や多くの市民の皆様との励みとご支援のおかげだと感謝しています。私たちは、このグランプリを新たなスタートとして、さらに環境に負荷をかけないエコな和紙を研究し、遠野の新たな和紙文化の創造と構築を継続し、そして遠野市の産業振興に向け地域と共に頑張っていきたいと思っております。これからも「私たち高校生でもできる」という可能性を信じて和紙を漉き続けていきます！

ファイナリスト紹介

ジュニア・キッズ部門 環境大臣賞 金賞(ジュニア・キッズ部門)

バイオメタンを利用した新しい暮らしを提案する教育プログラム

学校法人静岡理工科大学星陵中学校

〒418-0035 静岡県富士宮市星山1068

☎0544-24-4811 <http://www.starhill.ed.jp/jhs/>



本校ではバイオメタンに関する教育・研究活動を展開しています。バイオメタンシステムでは、生ゴミなどの有機性廃棄物から可燃性ガスと液体肥料を生成することができます。これまでに、校内にバイオメタンを生成する施設の設置、出張講義や室内実験と発表会を実施することで、生徒への環境教育を展開しました。また、生成したバイオメタンを聖火として燃焼するための活動、液体肥料で作物栽培を実施することで、生徒の課題研究活動を促進しています。



審査コメント

学校内に生ごみからバイオメタンと液肥を作る施設を導入するとともに、それを生徒への環境学習に活用した取組であるが、特に中高一貫教育の中で学習から実証実験に至るまで生徒が主体的に取組み、4年間の総合的なプログラムを作り上げたことは高く評価できる。また液肥を様々な作物で実験し、最適な液肥量を明らかにするなどの新たな知見を生んだことも興味深い。さらに地域への情報発信として聖火にこのバイオメタンを使うことを提案するという挑戦は続けているが、是非このバイオメタンが東京オリンピック・パラリンピックの聖火の燃料となることを一層に願いたくなるような秀逸な取組である。

—— 審査・企業/団体賞選考委員会 委員長 金谷 年展

受賞者コメント

この度はジュニア・キッズ部門環境大臣賞金賞という素晴らしい賞をいただくことができ、大変うれしく思っております。今回の受賞の影響で学校内でもこれまで以上に興味を持ってくれる生徒が増え、新しい研究メンバーも加わりました。今回このように高く評価して頂いた理由に、多くの人が私たちが目標としているバイオメタン聖火に期待して下さったことがあると考えております。今回の受賞をゴールとしてしまうのではなく、新たなスタートとして再出発し、バイオメタン聖火を実現させたいと思っております。これからも応援して下さる方々への感謝を忘れず、日々努力していきたいです。

学生部門 環境大臣賞 金賞(学生部門)

津波地域を変える
桜・バラと食物連鎖を用いた低炭素社会の構築

宮城県農業高等学校 科学部復興プロジェクトチーム

〒981-1243 宮城県名取市高笹川上字東金剛寺1番地
☎022-384-2511 <http://miyanou.myswan.ne.jp/>



津波被害を受けた沿岸部は今も樹木が少なく雑草の繁茂が目立つ状況です。原因の1つは削られた土壌で、作土層の10cm回復には1000年を要すると言われていて、そこで地力のアップに着手し低炭素社会の構築を促進しています。桜とバラを休耕地などに植える活動に加え、サークルリング状花壇にすることで食物連鎖がよく働き人手を要せずとも自然と土壌微生物バイオマスが形成され土が豊かになったため、同様の被災地への波及を願って活動しています。



審査コメント

東日本大震災により学校は津波を受けて全壊したが、この時津波から奇跡的に生き延びた桜があり、これを未来に残すと共にそれを一つの象徴として津波により大被害を受けた地力の回復を大幅に向上させるプロジェクトとして桜とバラの食物連鎖を活用し見事な成果をあげた。これは震災復興として大きな意義があるだけでなく、あらゆる自然再生・土壌再生の新たな知見として大きな貢献である。作土層10cmの回復に1000年は要すると言われていたのに対し、すでに600本の桜、1400本のバラが育ち他の自治体からも多くの相談依頼が来るなど波及効果も大きく極めて高く評価できる。

—— 審査・企業/団体賞選考委員会 委員長 金谷 年展

受賞者コメント

環境大臣賞 金賞 学生部門の受賞に当たり、ご支援を賜りました全国の皆様にご礼申し上げます。東日本大震災という未曾有の大災害から間もなく7年、この教訓を後世に伝え、人口減少地域の復興にどう貢献できるかを農業高校生の立場で問い続けてきました。津波を経験した先輩生徒や地域の方々の想いを代々受け継ぎ、その想いはやがてボランティアとの協働作業として桜とバラの植栽、土づくり、生業へと広がっています。今回、大変名誉ある賞をいただき、関係者一同喜びを分かち合うと共に誓いを新たにしているところです。産業化もままならない被災地ですが、今後も震災を伝え継ぐ桜で低炭素社会の構築に向け、活動していく覚悟です。

ファイナリスト紹介

市民部門 環境大臣賞 金賞(市民部門)

大阪府ESCO事業による省エネ・省CO₂化の推進

大阪府 住宅まちづくり部 公共建築室 設備課

〒559-8555 大阪府大阪市住之江区南港北1-14-16 大阪府咲洲庁舎(さきしまコスモタワー)26階
☎06-6210-9799 http://www.pref.osaka.lg.jp/koken_setsubi/esco/



ESCO (Energy Service Company) 事業とは、ESCO事業者のノウハウと資金で省エネルギー化を実現し、その効果を保証する事業です。省エネルギー化による光熱水費の削減分で改修工事に係る経費等を償還するため、省エネルギー効果と費用対効果を最大限に引き出すことができます。設備課では、府が所有する建物にESCO事業を効果的に展開するとともに、府内市町村等への普及促進にも努めております。



審査コメント

ESCO事業自体は民間では以前より様々な所で普及してきているが大阪府の取組は地方自治体として極めて先駆的で大きな実績を上げてきている。2001年に全国自治体初の民間資金活用型ESCO事業を実施し、2015年に「新・大阪府ESCOアクションプラン」を策定するとともに府が所有する施設に徹底的にESCO事業を展開。70の施設で光熱水費削減額約74億円、平均省エネ率26.7%を達成させた。地方自治体でここまで徹底した取組は特に都道府県では他に類をみない。またこの活動を大阪府は市町村へも波及させるべく市町村向けのESCO事業を実施。省エネルギーは低炭素化への1丁目1番地とも言えるが地方自治体の素晴らしい省エネルギーの普及モデルの代表といえよう。

—— 審査・企業/団体賞選考委員会 委員長 金谷 年展

受賞者コメント

低炭素杯2018において、環境大臣賞金賞市民部門を受賞できたことを大変光栄に思っております。本府では、2001年に全国の自治体で初となる民間資金活用型ESCO事業を実施したのを皮切りに、これまでに府が所有する84施設にESCO事業を導入してきました。また、府内市町村を対象に出前講座を実施するなどESCO事業の普及促進にも努めており、環境性のみならず経済性にも優れたESCO事業を少しでも多くの皆さまに知って頂ければと、低炭素杯に応募させて頂きました。今回の受賞により、ESCO事業の輪が更に広がっていくことを期待しております。今後も引き続き、低炭素社会の実現に向けてESCO事業を推進していきます。

企業部門 環境大臣賞 金賞(企業部門)

「鶏も人も幸せ」持続可能な
低炭素養鶏業PARTII「廃棄物編」

倉持産業株式会社

〒303-0044 茨城県常総市菅生町683-1
☎ 0297-27-1131 <http://www.kuramochisangyo.jp/news01.html>



持続可能な養鶏は、至難の業。中小の養鶏業者は、物価の優生たまたごの価格の安さと、人手不足、莫大な経費のアンバランスに悩んで、次々に廃業しています。当社は養鶏業の抱える悩みに積極的に取り組んできました。情報収集をして戦略的な投資と、計画的な投資回収を繰り返しています。当社のCO₂削減は、電気、燃料、廃棄物の3本柱です。今回は、持続可能となった直営農場の鶏ふん処理と、液卵工場の卵殻処理をご紹介します。



審査コメント

「鶏も人も地球も幸せ」。まさにその三方よしを実現させる先駆的な取組といえる。安全・安心は鶏ふん処理とともに独自の手法で良質の発酵鶏ふん堆肥をつくるとともに卵殻も全量リサイクルへの道筋ができた。これらによって効率化による採資性と低炭素化の両方が実現された。また他の中小養鶏業者とも連携、倉持方式の安全で環境にやさしく採資性の高い養鶏業のあるべき事業モデルを波及できる取組が極めて高く評価できる。養鶏業だけでなくあらゆる日本の農業、酪農を守っていくための示唆に富んだ取組みと言える。

—— 審査・企業/団体賞選考委員会 委員長 金谷 年展

受賞者コメント

低炭素杯では昨年「エネルギー削減編」でエコガニック賞を受賞。本年「廃棄物削減編」で企業部門環境大臣賞金賞を受賞。「鶏と人に優しい」当社の取組が2年連続で受賞した事を大変誇りに思います。ありがとうございます。この受賞は「エコネットいばらき」を始め、ボランティア活動を通して出来た、いばらきのエコの輪の賜物です。今後もヨーロッパから3階建ての最新のウインドレス平飼いの鶏舎を取入れる等、動物福祉の面からも「鶏の幸せ」を追求します。当社の「人に優しい」持続可能な低炭素養鶏は、まだまだ進化中です。これからも「安心安全美味しいたまご」を供給できるよう取組みます。ありがとうございます。

主催 低炭素杯実行委員会

共催



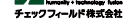
特別協賛



協賛



協力



後援



事務局

一般社団法人地球温暖化防止全国ネット(JNCCA)



低炭素杯事務局(一社)地球温暖化防止全国ネット内)

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3
第一アマイビル4階
TEL:03-6273-7785 FAX:03-5280-8100
<https://www.zenkoku-net.org/teitansohai/>



この印刷物は、FSC®認証紙を使用し、VOCを発生しない「UVエコインキ」を使い、「氷なし印刷」で印刷しています。また、省資源化(フィルムレス)に繋がるCTPにより印刷しています。

